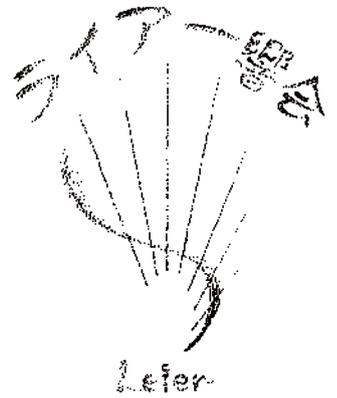


なぜ $A_{(ラ)} = 432\text{Hz}$

なのか?



2018

9月12日 (水)

10:30 ~ 15:00 (予定)

早稲田奉仕園 You-Iホール

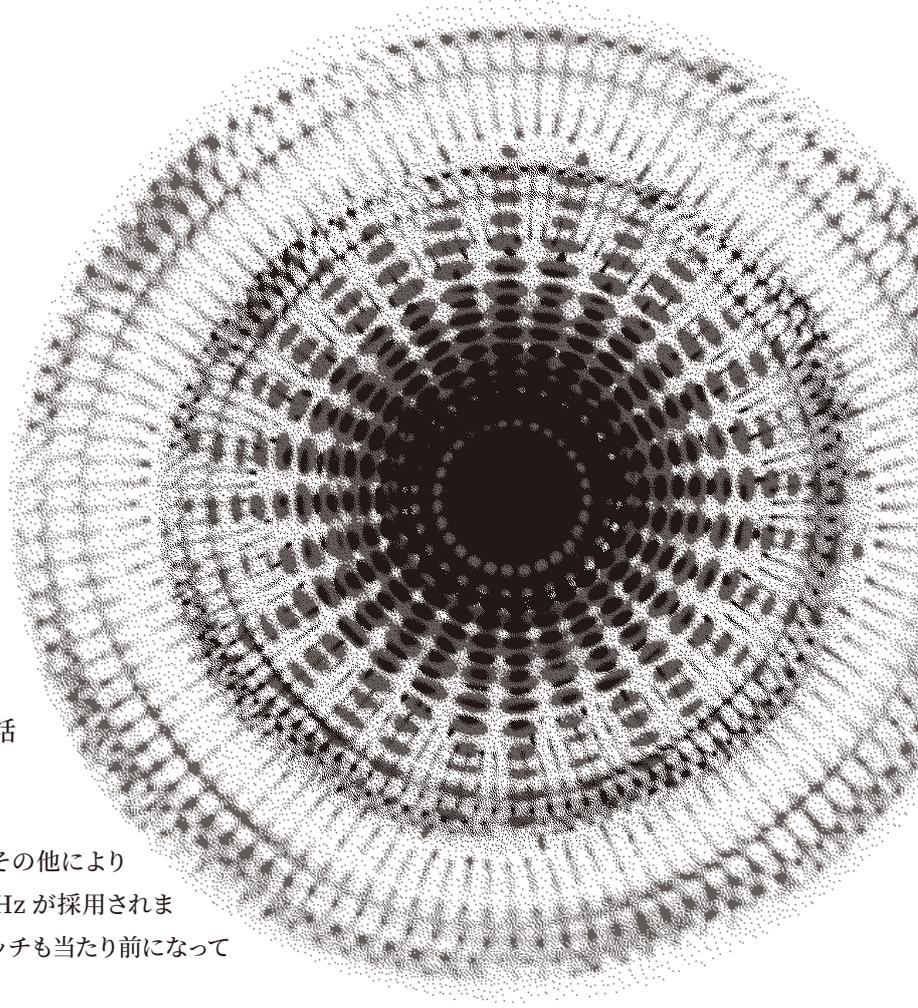
◆講師 ヴォルフガング・フリーベ
(通訳: 古賀美春)

自分のライアーは何時も $A=432\text{Hz}$ に調弦しているけれど、なぜこのピッチに合わせるのかについて、詳しく理解している方は少ないのではないかと思います。今回はこのことにも詳しい W. フリーベさんを講師に迎えて、「 432Hz とライアー」についてお話していただきます。

音合わせの標準音 (コンサートのピッチ) は、時代、国、その他により異なっていましたが、1950年代に世界基準として $A=440\text{Hz}$ が採用されました。現在ではさらに高めに、 $442 \sim 445\text{Hz}$ といったピッチも当たり前になっています。

ライアー響会主催の大会や講座などでは、2002年9月の発足のときから、 $A(ラ)$ 音が 432Hz というピッチを採用してきました。この決定に至る経緯として、2000年の夏、ドイツ・ハンブルグで初めて開催された「ライアー国際大会」があります。この大会で初めて参加者全員のライアーが $A=432\text{Hz}$ に調弦されました。当時のドイツでは $A=440\text{Hz}$ に調弦する人と、音楽療法に関わる人々を中心にして $A=432\text{Hz}$ に調弦をする人がいたため、大会を開催するにあたりどちらかに決めなければならない状況が、その背景にありました。それを受けて、その後のライアー国際大会や多くのライアーの集まりでも、この $A=432\text{Hz}$ で調弦することが普通になりました。

「なぜライアーを $A=432\text{Hz}$ に調弦するのか」を考えるにあたり、「数学」と「音楽」の関わりについてから、お話が始められると思います。興味をお持ちの方はぜひご参加ください。



プロフィール

ヴォルフガング・フリーベ

Wolfgang Friebe

1954年ドイツ・ミンデン生まれ。治療教育学の中でライアーに出会い、自由音楽学校(フライエムジークシューレ)でライアーを学ぶ。1983年よりスイス・バーゼルの障害者学校の音楽教師をつとめる。2014年より北ドイツのエルベ川沿いに移る。ヨーロッパ各地でライアーのコンサートを行っている。ライアー楽譜集「レーゲンボーゲン」(ライアー響会で出版)の著者。

古賀美春

Miharu Koga

大阪芸術大学声楽科卒業後、1977年渡独。ベルリン芸術大学卒業。演奏活動の傍ら、ベルリン教会音楽大学声楽科講師を務める。1996年帰国。同年よりシュタイナー学園音楽専科教師。

◆参加費 3500円

◆定員 25名

◆持ち物 筆記用具、昼食 (ライアーをお持ちいただく必要はありません)

◆参加申し込み・お問い合わせ

お名前・ご住所・Tel/Fax番号・メールアドレスをご記入の上、下記までできるだけメールでお申し込みください。
・E-Mail hibiki@leierkyokai.jp Fax 047-372-2807(水野)

申し込み後、下記のゆうちょ銀行振替口座に参加費をお振り込みください。
尚、振り込まれた参加費はキャンセルされても返金できません。ご了承ください。

振替口座 00180-8-570665

他金融機関から 〇一九店 570665

加入者名 ライアー響会

早稲田奉仕園

You-Iホール

(奉仕園会館地下)
新宿区西早稲田2-3-1

*東京メトロ東西線 早稲田駅より
(徒歩約5分)

*JR山手線・西武新宿線
高田馬場駅より バスを利用する場合(所要時間約10分)

*東京メトロ副都心線 西早稲田駅
より(徒歩約8分)

